

学会通信

2018年活動報告（敬称略）

（1）第19回総会

2018年1月20日（土）午前11時20分～午後5時20分

於：早稲田大学36号館382教室（戸山キャンパス）

1. 研究発表（所属は発表当時）

伊禮良栄（沖縄県立那覇西高等学校）

「『三線』で奏でる沖縄音楽に関する文化人類的考察—沖縄にとって『三線』とは何か」

海老澤圭（早稲田大学大学院 文学研究科）

「ラオス人民民主共和国の都市部における食文化—伝統と革新の狭間にある食生活の事例」

高梨知揚（東京有明医療大学 保健医療学部）

「がん緩和ケアにおける鍼灸治療にみる儀礼的側面」

齋藤正憲（埼玉学園大学 人間学部）

「呪術師4人—バングラデシュのパゴールとコビラージ」

2. 総会

司会（増見エミ）

議事（議長：松田俊介、書記：海老澤圭）

理事の竹中宏子会員より、以下の提案および報告があり、審議の結果、了承された。

a. 役員選出

b. 2017年事業報告

c. 2018年事業計画

原則として2017年の事業に準ずる

d. 2017年決算報告

2017年収支決算書（次頁）

e. 2018年予算

2018年収支予算書（次頁）

上記d. e. の項目に関しては、2018年総会において提示された資料および報告を参照のこと。

g. その他

早稲田文化人類学会の事務・業務の外部委託化の検討が提示され、審議の結果、承認された。

学会誌『文化人類学研究』の電子化の検討が提示され、審議の結果、承認された。より多くの会員を獲得するための具体案として、早稲田文化人類学会を外部に開かれた学会にしてゆく案が提示された。その案に関して理事会に一任する旨が提示され、審議の結果、承認された。

事務局より第2回学会奨励賞の選考対象を『文化人類学研究』第17巻及び第18巻の投稿論文とすることが発表された。

2017年収支決算書

2017年1月1日～2017年12月31日

| 収 入 | | 支 出 | |
|-------|------------|---------|------------|
| 会費 | ¥808,000 | 印刷製本費 | ¥0 |
| | | 会場施設費 | ¥0 |
| 会誌売上金 | ¥12,240 | 会議費 | ¥21,943 |
| 前年繰越金 | ¥895,158 | 事業費 賞金 | ¥0 |
| 学会補助金 | ¥50,000 | 通信運搬費 | ¥49,455 |
| 雑収入 | ¥9 | 事務用品費 | ¥26,932 |
| | | 事務費 複写費 | ¥0 |
| | | 謝金 | ¥192,250 |
| | | 人件費 交通費 | ¥2,480 |
| | | 振込手数料 | ¥0 |
| | | その他 雑費 | ¥15,000 |
| | | 次年繰越金 | ¥1,457,347 |
| 合計 | ¥1,765,407 | 合計 | ¥1,765,407 |

2018年収支予算書

2018年1月1日～2018年12月31日

| 収 入 | | 支 出 | |
|-------|------------|-----------|------------|
| 会費 | ¥800,000 | 事業費 印刷製本費 | ¥1,400,000 |
| | | 会場施設費 | ¥0 |
| 会誌売上金 | ¥20,000 | 会議費 | ¥50,000 |
| 前年繰越金 | ¥1,457,347 | 賞金 | ¥0 |
| 学会補助金 | ¥390,000 | 通信運搬費 | ¥50,000 |
| 雑収入 | ¥10 | 事務用品費 | ¥50,000 |
| | | 事務費 複写費 | ¥20,000 |
| | | 謝金 | ¥200,000 |
| | | 人件費 交通費 | ¥20,000 |
| | | 振込手数料 | ¥500 |
| | | その他 雑費 | ¥20,000 |
| | | 予備費 | ¥856,857 |
| 合計 | ¥2,667,357 | 合計 | ¥2,667,357 |

3. シンポジウム

テーマ 「超 - 人類学」 —この時代を生きるために

<パネリスト>

小田マサノリ (中央大学ほか 非常勤講師)

「人類学を“ルーツ”にする—雑(種の)学としての人類学のちから」

梅田夕奈 (都立松沢病院)

「人生の外への出方—生物医学とのはざままで」

久保明教 (一橋大学大学院 社会学研究科)

「パッケージの中の他性—『ポケモン』と外部なき世界の人類学」

<コメンテーター>

松村圭一郎 (岡山大学大学院 社会文化科学研究科)

<コーディネーター・司会>

木村周平 (筑波大学 人文社会系)

(2) 第18回研究集会

2018年7月14日(土) 午後2時30分～午後5時20分

於：早稲田大学36号館681教室(戸山キャンパス)

1. 研究発表

松田 俊介 (早稲田大学大学院 人間総合研究センター)

「食責め儀礼・強飯式における民衆文化の処世の構図—栃木県鹿沼市上粕尾妙見神社の強力行事を中心に」

2. 講演

春日 直樹 (一橋大学大学院社会学研究科 特任教授)

「男と女：パプアニューギニアの民族誌から考える」



写真 春日直樹氏

(3) 理事会

理事会は、以下の日程で行なわれた。審議内容はおもな議題のみを記した。すべての議事録は事務局に保管されている。

第 39 回 2018 年 1 月 20 日 (土)

- 1) 審議事項
 - a. 2018 年総会・シンポジウムについて
 - b. 2017 年決算・監査および 2018 年予算案について
 - c. 2018 年役員および事務局体制について
 - d. 2018 年 7 月研究集会について
 - e. 2019 年総会・シンポジウムについて
 - f. 2019 年 7 月研究集会について
 - g. 早稲田文化人類学会将来構想について
 - h. その他

- 2) 報告事項
 - a. 会員数動向および財務状況
 - b. 編集企画委員会
 - c. その他

第 40 回 2018 年 7 月 14 日 (土)

- 1) 審議事項
 - a. 2018 年 7 月研究集会について
 - b. 2019 年総会・シンポジウムについて
 - c. 2019 年 7 月研究集会について
 - d. 2019 年役員・委員・事務局体制について
 - e. 早稲田文化人類学会将来構想について
 - f. その他

- 2) 報告事項
 - a. 会員数動向および財務状況
 - b. 編集企画委員会
 - c. その他

(4) 編集企画委員会

編集企画委員会は、以下の構成および日程で行なわれ、学会誌 19 巻に関する特集原稿・投稿原稿の査読依頼・審査などの編集業務、および学会誌第 19 巻の特集企画の設定などを担当した。

1. 構成

編集企画委員長

木村周平

編集企画副委員長

石田智恵 堀口佐知子

編集企画委員 (50 音順)

碓陽子 磯野真穂 大川真由子 砂井紫里 内藤順子 中嶋哲也

濱雄亮 箕曲在弘

2. 開催日程

第 56 回 2018 年 4 月 14 日 (日)

(5) 学会誌

『文化人類学研究』第 19 巻が 2018 年 12 月 30 日に刊行された。

(6) 会員動向 (刊行物出版)

【書名】『鷲使い(イーグルハンター)の民族誌-モンゴル西部カザフ騎馬鷹狩文化の民族鳥類学』

【著者名等】相馬拓也

【刊行年月】2018 年 2 月

【出版社】ナカニシヤ出版

【書名】『ソウル・ハンターズ——シベリア・ユカギールのアニミズムの人類学』

【著者名等】レーン・ウィラースレフ (著)、奥野克巳・近藤祉秋・古川不可知 (共訳)

【刊行年月】2018 年 3 月

【出版社】亜紀書房

【書名】『はじめて学ぶ文化人類学』

【著者名等】岸上伸啓（編著）

【刊行年月】2018年4月

【出版社】ミネルヴァ書房

【書名】『ロクロを挽く女：アジアの片隅で、ジェンダーを想う』

【著者名等】齋藤正憲

【刊行年月】2018年5月

【出版社】雄山閣

【書名】『やきもの：つくる、うごく、つかう』

【著者名等】佐々木幹雄、齋藤正憲（編）

【刊行年月】2018年5月

【出版社】近代文藝社

（7）受贈図書・雑誌要目

慶應義塾大学東アジア研究所

・『慶應義塾大学東アジア研究所ニューズレター』No.29、2017年12月。

早稲田大学文学学術院

・『文化人類学年報』第12巻、2017年12月。

鹿児島国際大学

・『鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告』第15集、2018年3月。

成城大学文芸学部

・川田牧人・水野千依・喜多崎親（著）『〈祈ること〉と〈見ること〉——キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話』三元社、2018年9月。

成城大学グローバル研究センター

・Deniss Riches, *Sayonara Nukes: The Case for Abolishing Nuclear Energy and Nuclear Weapons*, 358., 2018.

・T. Uesugi and M. Yamamoto (eds.), *The Perspective of Glocalization: Addressing*

the Changing Society and Culture under Globalization, 173., 2016.

・ M. Aoyama and Japan All Stars (eds.), *Shaping the Future through Performance: Lectures Delivered by L. Holzman and D. Friedman* (『パフォーマンスが拓く世界の未来-ロイス・ホルツマン、ドン・フリードマンとともに-』) (Seijo CGS Working Paper Series No. 14) , 56., 2018.

・『グローカル研究』 No. 5, 2018年。

成城大学大学院文学研究科

・『日本常民文化紀要』 第33輯、2018年3月。

東北大学大学院文学研究科 文化人類学研究室

・『東北人類学論壇』 第16号、2017年3月。

・『東北人類学論壇』 第17号、2018年3月。

(8) 会員数

上記の学会活動の結果として、2018年11月30日現在の会員数は189名となっている。

(事務局)